

平成 29 年度 豊岡市環境報告書

コウノトリと暮らす豊岡の環境



▲ビオトープ八条に降り立ったコウノトリ（平成 29 年 10 月 撮影）

平成 31 年 3 月
豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

******* 目次 *******

第1部 豊岡市環境基本計画と環境報告書について（P1～4）

第2部 「目標とする姿」への取組み状況（P5～38）

第3部 豊岡市の環境の状況（P39～48）

第4部 市の取組み実績（P49～66）

第5部 前年度環境審議会意見の反映状況(市の取組み)（P67～72）

**第6部 平成29年度の環境に関する取組みについて
豊岡市環境審議会の意見(今度の取組みに向けて)（P73～76）**

第1部 豊岡市環境基本計画と環境報告書について

■豊岡市環境基本計画について

平成28年度に見直しを行い、第2次環境基本計画を策定しました。

第2次環境基本計画の体系図は、次頁のとおりです。計画の基本理念・基本方針をもとに、10年後に到達すべき10個の「目標とする姿」を描き、それを実現するための具体的な方向性と行動指針を定めています。

■環境報告書について

この「豊岡市環境報告書」は、「豊岡市コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」に基づき、毎年、環境の状況や計画の取組み状況等について、豊岡市環境審議会の意見を付して公表するものです。

今回の環境報告書の取りまとめにあたっては、第2次環境基本計画の10個の「目標とする姿」への達成状況を、それぞれ「よくがんばりました」・「この調子でがんばろう」・「もっとがんばろう」の3段階で評価しました。

豊岡市環境基本計画の体系

■基本理念（第2章）

計画を進めるにあたっての基本的な考え方は次のとおりです。

- 1 豊岡に住み、豊岡を訪れるすべての者が当たり前のこととして、人とコウノトリが共に生きるまちにふさわしい行動をとります。
- 2 良好な環境は先人から受け継いだものであることを認識し、次の世代に引き継ぎます。
- 3 地域ごとに異なる環境に応じ、地域の個性を生かして取り組みます。

私たちは、次の六つの合言葉をいつも気にしながら行動します。

「もったいない」「ちょっとでも」「ばちがあたる」
「心地よい」「つなぐ」「自信・誇り」

■基本方針（第2章）

基本理念をもとに、みんなで取り組みを進めるための基本方針。

- 1 自然・文化・歴史的資源の理解と保全
- 2 人と生きものがバランスよく共生するまちづくり
- 3 資源の無駄遣いをなくす循環型のまちづくり
- 4 環境意識を高める環境にやさしい人づくり
- 5 環境行動を持続的にする取り組み
- 6 地球環境の保全に貢献

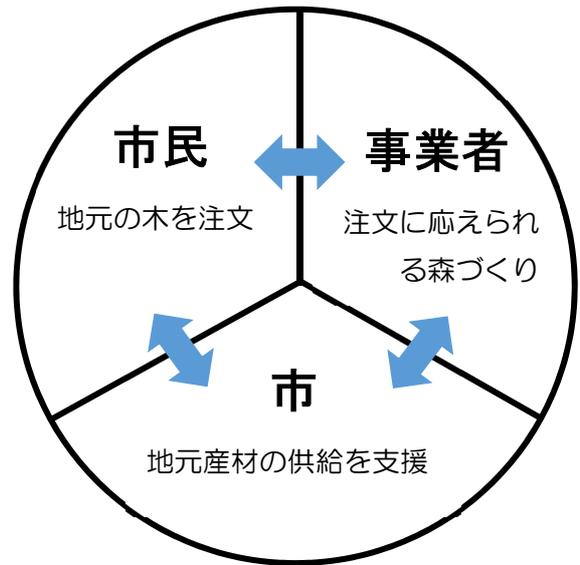
■目標とする姿（第3章）

長期的な視点のもと、みんなで取り組みを進めて10年後に到達すべき目標像。

- ① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます
- ② 里山が様々に利用され、関わる人が増えています
- ③ 使われていない農地の利用が進み、生き物の豊かな田んぼが増えています
- ④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます
- ⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています
- ⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています
- ⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています
- ⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています
- ⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています
- ⑩ 環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【注釈】 第2次豊岡市環境基本計画は、平成29(2017)年度から10年間の計画です。
「目標とする姿」は、2027年度の豊岡市の姿を想定しています。

取組みの方向(下記)に掲げる一つひとつの課題に関して、市民、事業者、市が連携してみんなで取り組みます。



【来訪者に求めること】

来訪者にも豊岡に滞在中は、市民等と同様に、環境を良くするための行動を求めます。

■取組みの方向（第5章）

「目標とする姿」を実現するため、市民・事業者と市が、みんなで協力して取組みを進めていく方向を示す。

- 1 森林を利用し、保全します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します
- 4 農林水産業の新たな担い手を育成します
- 5 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります
- 7 地域の文化や景観を保全し、活用します
- 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます
- 9 環境意識を高める学習・教育を進めます
- 10 環境に関する知を集積し、活かします
- 11 ごみの減量・再資源化を進めます
- 12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます
- 13 地産地消を進めます
- 14 環境と経済の共鳴を進めます

関連する目標像

(目標像①～⑩)

- 1…①②⑤⑦⑩
- 2…④⑤⑦⑧⑩
- 3…②③④⑤⑦⑩
- 4…①②③⑤⑦⑩
- 5…①②③④⑤⑦⑩
- 6…①⑧⑨
- 7…④⑤⑥
- 8…④⑤⑥⑦
- 9…①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- 10…③⑤⑦⑩
- 11…④⑧
- 12…⑧⑨
- 13…②③⑩
- 14…③⑤⑦⑩

第2部 「目標とする姿」への取組み状況

■取組み状況について

「目標とする姿」一つひとつについて、平成 29 年度を含む「主な指標の変化」(平成 19 年度～)と 29 年度の特徴的なトピックを掲載し、現時点での取組み状況の評価を行っています。

■目標とする姿（第3章）

- ① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます . . . p.7
- ② 里山が様々に利用され、関わる人が増えています . . . p.10
- ③ 使われていない農地の利用が進み、生き物の豊かな田んぼが増えています . . . p.13
- ④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます . . . p.17
- ⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています . . . p.20
- ⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています . . . p.22
- ⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています . . . p.28
- ⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、
1人あたりの排出量が徐々に減っています . . . p.30
- ⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、
再生可能エネルギーの利用も増えています . . . p.33
- ⑩ 環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています . . . p.36

■取組みの方向

- 1 森林を利用し、保全します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します
- 4 農林水産業の新たな担い手を育成します
- 5 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります
- 7 地域の文化や景観を保全し、活用します
- 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます
- 9 環境意識を高める学習・教育を進めます
- 10 環境に関する知を集積し、活かします
- 11 ごみの減量・再資源化を進めます
- 12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます
- 13 地産地消を進めます
- 14 環境と経済の共鳴を進めます

目標像①

手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【主な取組みの方向】

(1) (4) (5) (6) (9)

【具体イメージ】

スギやヒノキの林には広葉樹も植えられています／木材の利用が増えています／ペレットストーブなどの利用が家庭や事業所に広がっています

1 主な指標の変化(平成 19～29 年度)

(1) 除間伐と植樹



・豊かな森林を育てるため、太陽の光が木の根元や地面まで十分に届く環境をつくる「除間伐」を行っています。



・市・公社・民間等の分収造林全てを含みます。

【分収造林】

土地所有者と分収契約を結び、民有林野に対して造林を行い、その収益を土地所有者と分収するもの



・針広混交林化に向けて、広葉樹の植樹を進めています。落葉等で土壌が肥沃になるとともに、下層植生の成長を促し、土壌浸食等の防災効果が高まることが期待されます。

《所有別森林面積》(平成 28 年 3 月 31 日現在)

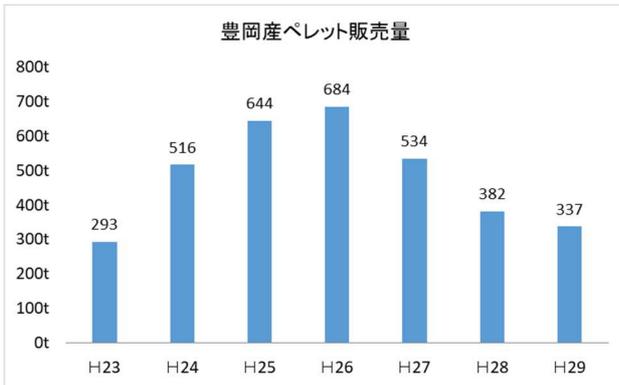
区分	面積	割合
公有林	3,501ha	6.42%
私有林	51,036ha	93.58%
合計	54,537ha	100.00%

資料：兵庫県森林GISシステム

(2) 間伐材の利用

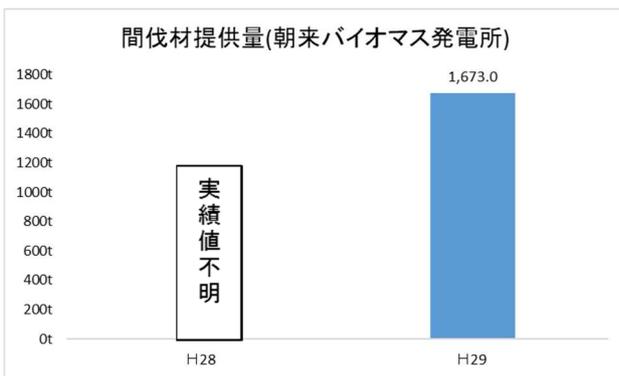


・間伐材をそのまま地滑り防止に活用する「土留工」を行っています。



・間伐材を搬出して、ペレットを製造・販売しています。自然エネルギーとしての利活用も進めています。

・ペレットを製造している株式会社豊岡ペレットは、北但東部森林組合 100%出資の子会社です。

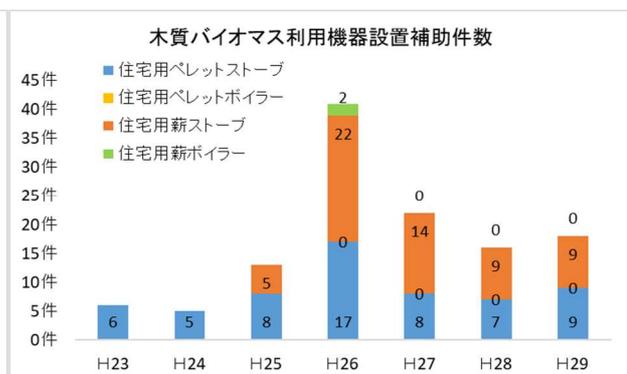
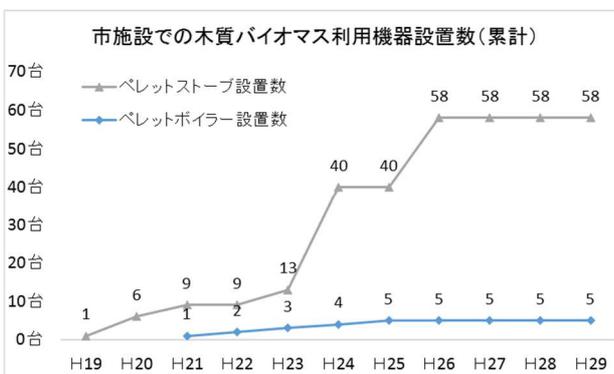


・平成 28 年 12 月、朝来市生野町のバイオマス発電所が運転を開始し、北但東部森林組合が、朝来市の「バイオマスエネルギー材供給センター」に原木とチップを提供しています。

・「バイオマスエネルギー材供給センター」から提供されたチップが、朝来バイオマス発電所で使われています。

バイオマス発電所への間伐材提供により、間伐材の利用方法が広がりました。

(3) 木質バイオマス機器の利用



・木質バイオマス(薪、木質ペレット)を燃料に利用するストーブ・ボイラーの利用促進を進めています。「住宅用」には事業所も含まれます。

間伐材の利用

■朝来バイオマス発電所

森林の持つ機能を高度に発揮していくためには、森林を適切に整備・保全することが必要です。整備・保全の方法の一つとして、森林の木の間伐が進められ、資源として間伐材の利用も促されています。間伐材利用の一つに、バイオマス発電があります。



写真提供：関西電力株式会社

平成 28 年度末に、関西電力グループ初の木質バイオマス専焼発電所が朝来市生野町に作られました。平成 29 年度から、豊岡市も本格的に燃料となる木材の提供を行っています。

- ・発電出力：5,600kw
- ・売電電力量：3,700 万 kwh(一般家庭 12,000 世帯の年間電気量)

■山の”財”の活用

神鍋白炭工房株式会社(日高町山田)では、山の財を適材適所で利活用する事をポリシーに、自然と共生する持続可能で心豊かなライフスタイルの実現を図っています。

メインは炭焼き(白炭)や薪づくり、ホダ木づくりで里山の木材を活用します。手入れが遅れた里山を伐採することで日光が射すようになり、新しい芽吹きが始まります。昆虫などが動き出し、それらを捕食する鳥類や小動物が活発に動き出し、またそれらを捕食する猛禽類や肉食動物が動き出す、まさに生態系が活発に動き出します。里山に豊かな植生が生まれることで、動物の生育環境を守る事もでき、鳥獣被害の低減にも貢献しています。

また、薪ストーブ、薪ボイラーの販売設置も行い、薪の利用を促進させる活動を日々行っています。

林道に倒れた大木の撤去や住宅付近の危険木の伐採、竹林整備、人工林の伐採などに加え、山菜採集、キノコ狩り、薪割り体験などアクティビティも行い、さまざまな角度で山に手を入れる活動を楽しみながら行っています。



2 平成 29 年度評価

評価

○住宅へのペレットストーブや薪ストーブの設置が徐々に増加してきている。

○バイオマス発電所への間伐材提供が積極的に行われている。

▲間伐材を利用したペレットの販売量が伸び悩んでいる。

この調子で
がんばろう

目標像②

里山が様々な利用され、関わる人が増えています

【主な取組みの方向】

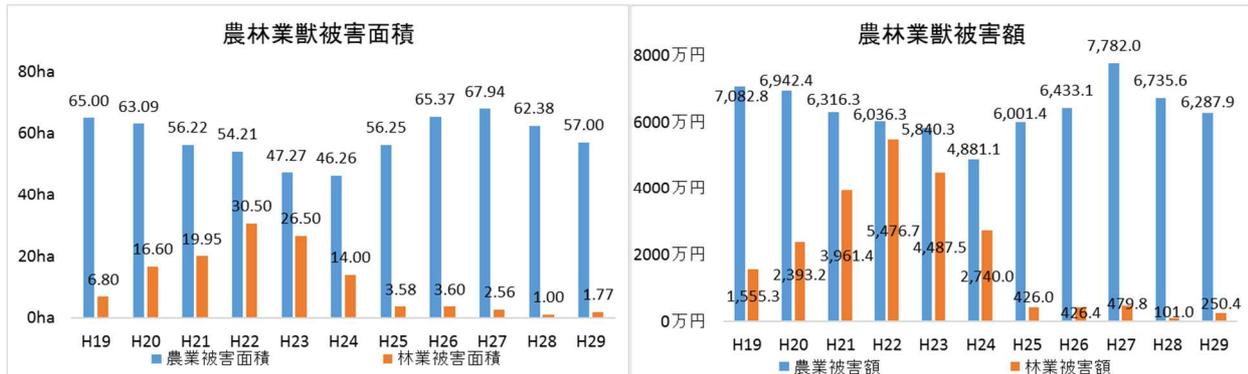
(1) (3) (4) (5) (9)
(13)

【具体イメージ】

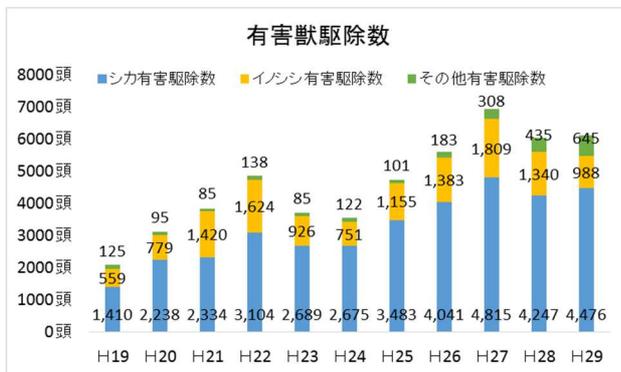
安心して散策を楽しめる里山が増えています／食用の山菜やキノコの知識をもった市民が増えています／森林ツーリズムなどを楽しむために森に入る人が増えています／イノシシやシカは適切に駆除され、肉や皮も多様に活用されています

1 主な指標の変化(平成 19～29 年度)

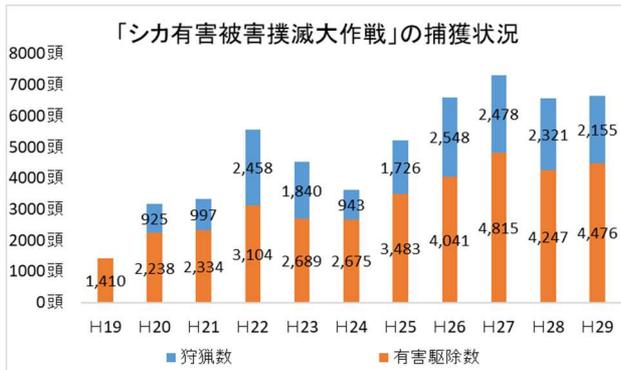
(1) 有害鳥獣対策



・林業被害のほとんどはシカによるものです。

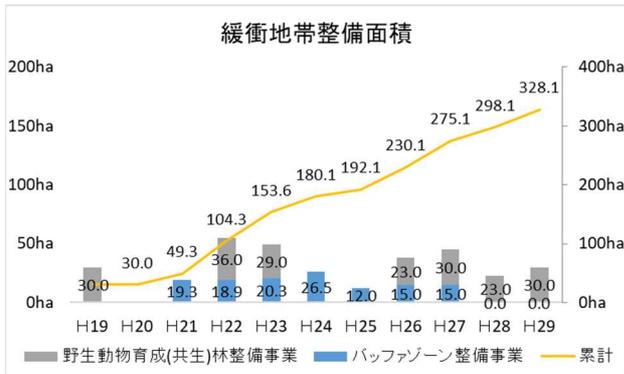


・「有害獣駆除数」グラフは、有害鳥獣駆除のみの数値で、11月から3月までの狩猟期に個人が捕獲したものは含まれていません。



・市では、年間捕獲数 6,500 頭を目標に、「シカ有害被害撲滅大作戦」を実施しています。

・「狩猟数」は、狩猟期(11月～3月)に個人が捕獲した頭数。「有害駆除数」は、一般、専任班、捕獲実施隊(市鳥獣害対策員と市担当で編成)が、有害獣として捕獲・駆除した頭数。

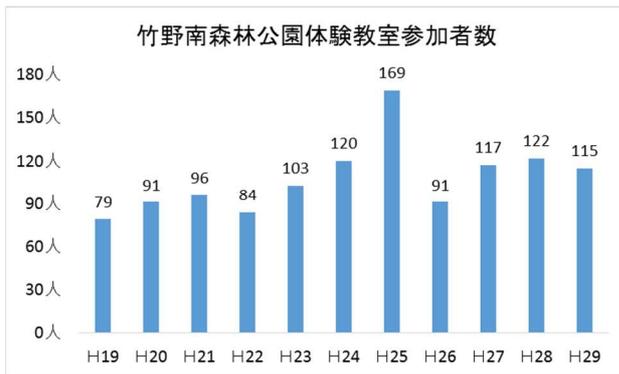


・このグラフの緩衝地帯(バッファゾーン)は、野生動物との住み分けを図るため設けられる、幅約20m程度の見通しの良い地帯を言います。

・バッファゾーン整備事業は平成21年度～27年度まで実施。

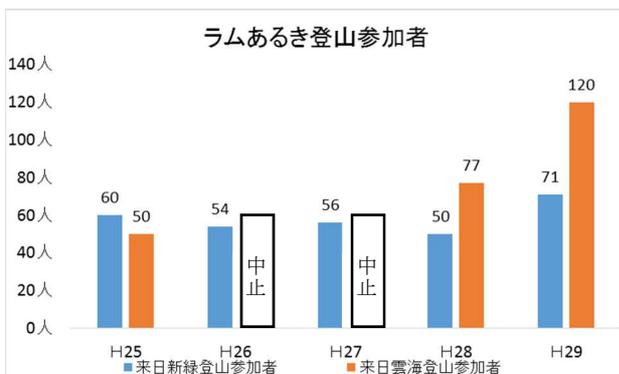
・野生動物育成(共生)林整備事業は、県が実施している2カ年事業です。

(2) 森林公園の利用



・(左)竹野南森林公園では、年7回、季節に合わせた体験教室を実施しています。

(3) 森林ツーリズム



・平成24年に「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約に登録され、翌年から来日山(城崎地域)の山頂からラムサール条約湿地を眺めるイベントを、5月と11月に実施しています。

森林やその周辺地域に存在する自然環境資源や生活文化資源を有効活用するため、「学ぶ」「遊ぶ」「観る」「食べる」などの視点でさまざまな活動が行われています。

それらの活動を「森林ツーリズム」と呼び、自然観察や、歴史探索、登山、トレッキング、滝・溪谷めぐり、バードウォッチング、木工クラフト、山菜とり、木の実拾い、山野草クッキングなどが含まれます。

指標となっているラムあるきの他に、下記のような活動が行われています。



▲ラムあるき「来日雲海登山」

☆神鍋溶岩流ウォーキング・阿瀬溪谷紅葉ウォーク

美しい自然の景色を眺めながら健康的に歩きます。

☆かんなべ自然学校

“自然あそび”の中の「大切な学び」を得る、アウトドアをフィールドとした学校

☆フォレストアドベンチャー・奥神鍋

子どもから大人まで楽しめる、自然共生型アウトドアパーク

2 平成 29 年度評価

評価

○ラムあるきが登山イベントとして浸透してきている。

▲クマの目撃情報が多くあり、山に入れなくなってきている。

▲有害獣対策として、駆除や防護柵の設置は進み、農業被害の数値は若干下降傾向にあるが、まだまだ解決にはなっていない。

もっと
がんばろう

目標像③

使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【主な取組みの方向】

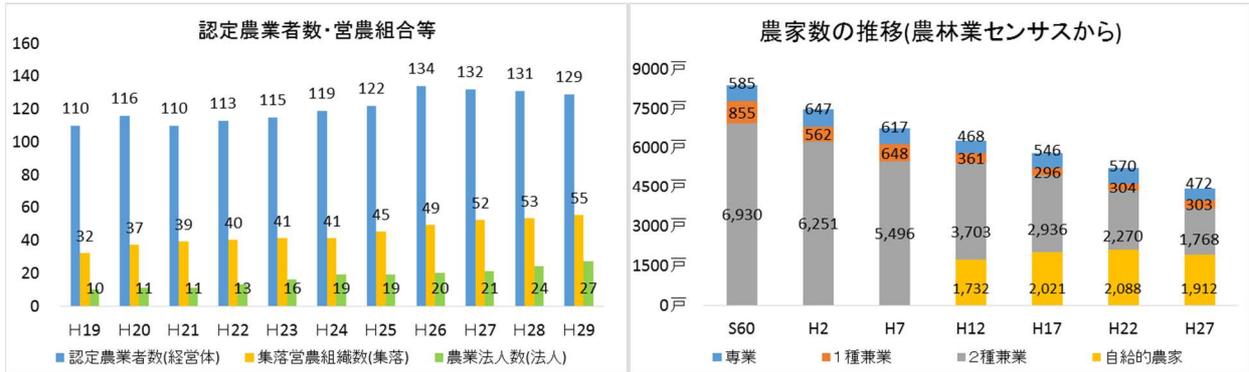
(3) (4) (5) (9) (10)
(13)

【具体イメージ】

農薬や化学肥料に頼らない農業が広がっています／就農する若い人が増えています／学校や家庭の食卓に豊岡でとれた安全安心な食材が並んでいます／多様な生きものと触れ合う子どもの姿をよく見かけます／ビオトープ水田など様々な使われ方で農地が活かされています

1 主な指標の変化(平成 19～29 年度)

(1) 豊岡の農業の現状

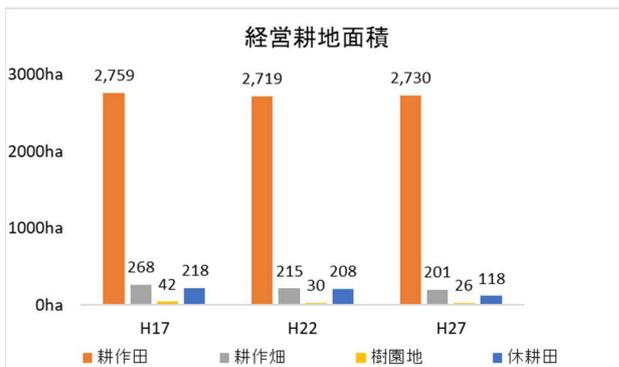


・就農者の高齢化・減少が進む中で大規模集約化の方向にあります。

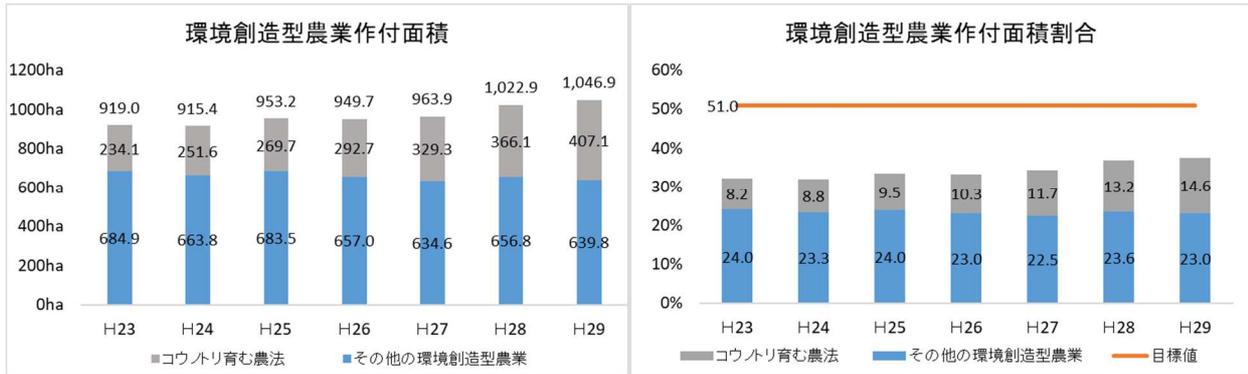
・平成 12 年以降の専業・兼業農家は「販売農家」に限られ、自給的農家の専兼業別調査が簡素化されました。

【用語説明】

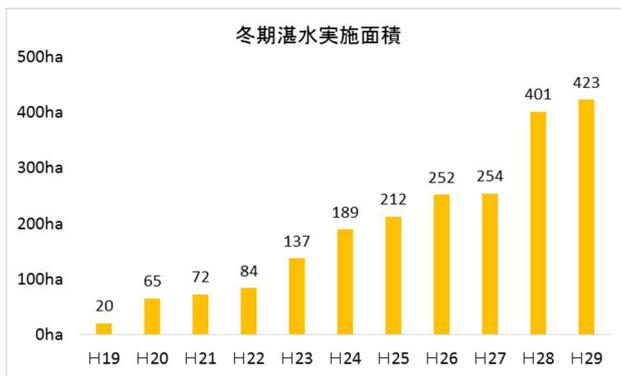
- ・認定農業者：農業経営改善計画を市町村に提出し、認定を受けた農業経営者・農業生産法人
- ・経営耕地面積：農家が経営する耕地の面積
- ・第 1 種兼業農家：農業所得を主とする兼業農家
- ・第 2 種兼業農家：農業所得を従とする兼業農家
- ・販売農家：経営耕地面積が 30a 以上または農産物販売金額が 50 万円以上の農家
- ・自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満かつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家



(2) 環境にやさしい農業

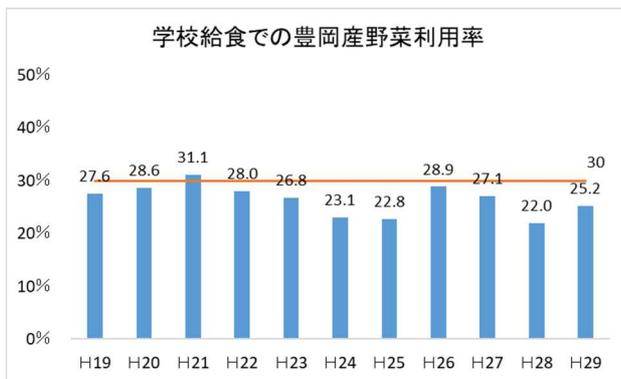


・「コウノトリ育む農法」をシンボルに、新たな栽培方策を導入するなどして、「豊岡型環境創造型農業」〔農薬・化学肥料 50%以上減(慣行農法比)〕の普及拡大を図っています。



・冬にも田んぼに水を張ることで、生きものが豊かになり肥料分を含むトロトロ層ができることで雑草の種子が発芽しにくく、抑草効果もあります。

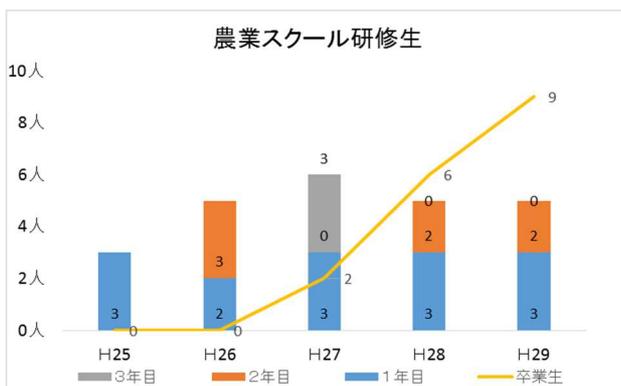
(3) 学校給食への利用



・農林水産省の第3次食育推進基本計画で学校給食における地場産物を使用する割合 30%以上を目標にしています。

・平成 28 年度から、週 5 回全ての米飯給食でコウノトリ育むお米(減農薬)を利用しています。

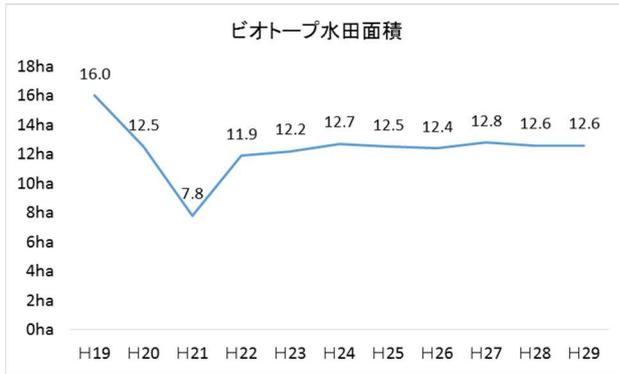
(4) 農業スクール研修生



・新規就農希望者が、就農に必要な農業生産技術と経営管理能力の習得を目指し、1年間(更新で最長3年間)学びます。

・卒業生は、雇用就農、独立自営就農とそれぞれ市内で就農しています。

(5) 休耕田の利活用



- ・多様な生きものを育む「ビオトープ(生きものがすむ場所)水田」としての管理委託を行っています。
- ・ビオトープ水田から田んぼに復田することもあります。
- ・小学校区ごとの面積は、目標像①(p.28)に掲載しています。

小学校区単位の広域営農組合

Topics

竹野南地区 16 集落で組織される竹野南地区コミュニティが、営農組合を設立しました。小学校区を単位とする広域営農組合は、豊岡市初です。

竹野南地区では高齢化が進み、目に見える範囲内に耕作放棄地が見られるようになってきたり、今まで担い手であった人が高齢や病気などで離農するなど農地の保全や管理が大きな課題となってきました。



(出典：竹野南地区コミュニティわいわい み・な・み ホームページ)

その中で、みんなで力を合わせて、今以上に耕作放棄地を増やさない、農地の保全を図ることを目的に、平成 28 年度から研究会で検討を進め、平成 29 年度に設立を迎えました。

この組合は、南地区全域 16 集落を中央統括、東部統括、西部統括の 3 統括部に分け、農地利用と作業受委託の調整をすることにしています。

八代オクラ

八代地区で古くから栽培されてきた伝統野菜の八代オクラがテレビ番組で紹介されました。

八代オクラは、ほとんどが家庭菜園として地区内で生産・消費されてきました。

番組では、地区内で唯一八代オクラを出荷・販売する畑の見学後、太くて肉厚な八代オクラの特長を生かしたレシピを披露。地域の宝『希少な野菜』と美味しさを広く知ってもらう機会となりました。

グローバル GAP

2018 年 1 月、たじま農業協同組合がコウノトリも住める環境づくりを目指して組合員と生産に取り組んでいる、特別栽培米コシヒカリ「コウノトリ育むお米」(無農薬・無化学肥料栽培)がグローバルギャップの認証を取得しました。

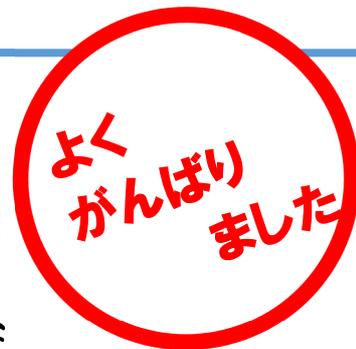
全国 652 ある JA で、無農薬の主食用米でのグループ認証は全国初です。



(出典：JA たじまホームページ)

評価

- 環境創造型農業の作付面積は引き続き増加している。
- 冬期湛水を行う水田が増えている。
- 平成 28 年度から、コウノトリ育むお米が、学校給食で毎日(5 日/週)使用されている。
- 集落営農が増えて、農業スクールの卒業生が豊岡で就農するなど、持続可能な農業の担い手が増えつつある。



目標像④

あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【主な取組みの方向】

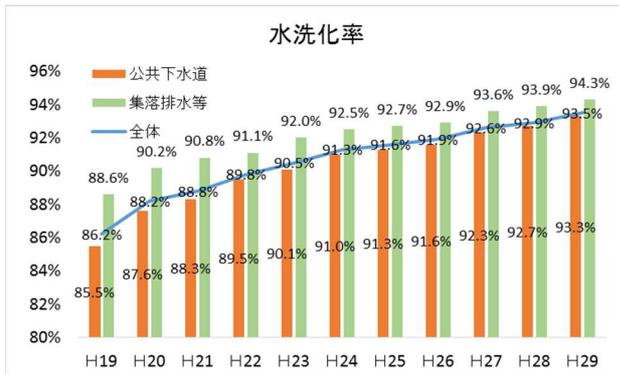
(2) (3) (5) (8) (9)
(11)

【具体イメージ】

市民みんなの協力で川や海がきれいになりました／ポイ捨てをしないという意識が高まり水辺のごみが少なくなっています／水質が改善し、川にはたくさんの魚が泳いでいます／子どもたちが日常的に魚をとったり水辺で遊ぶ姿を見かけています

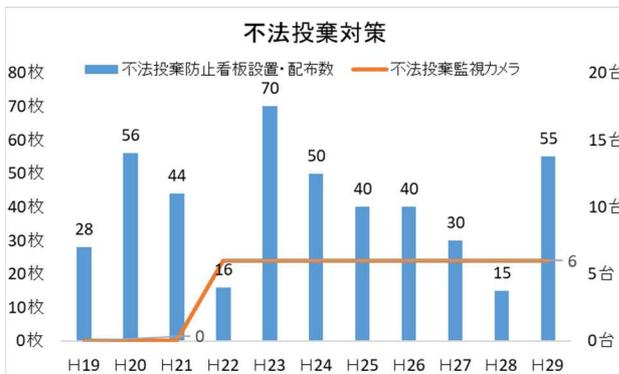
1 主な指標の変化(平成 19～29 年度)

(1) 川の水質保全



・河川の水質浄化につながる「水洗化率」は、95%を目標にしています。

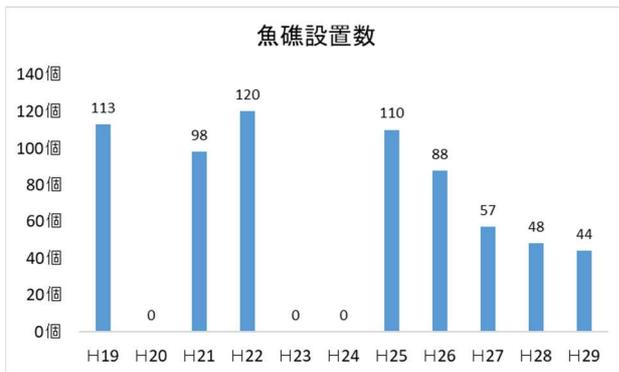
(2) ポイ捨て減少対策



・家庭ごみから自転車まで、さまざまなごみが河川敷に捨てられています。

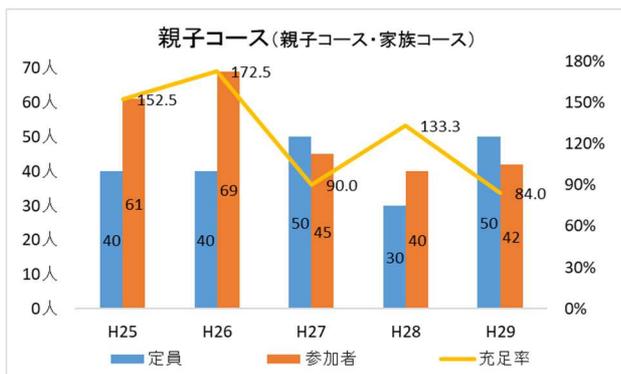
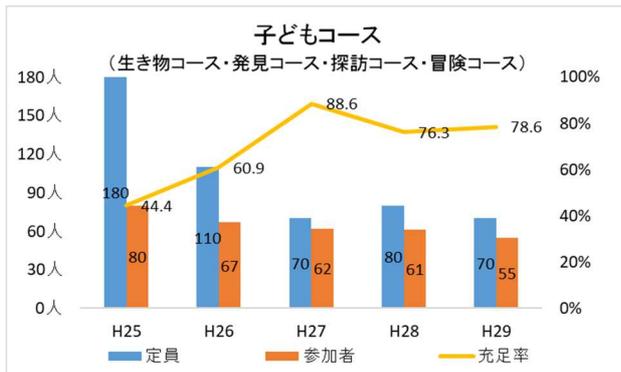
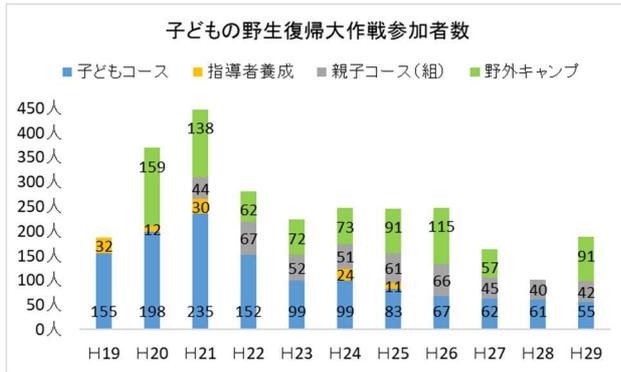
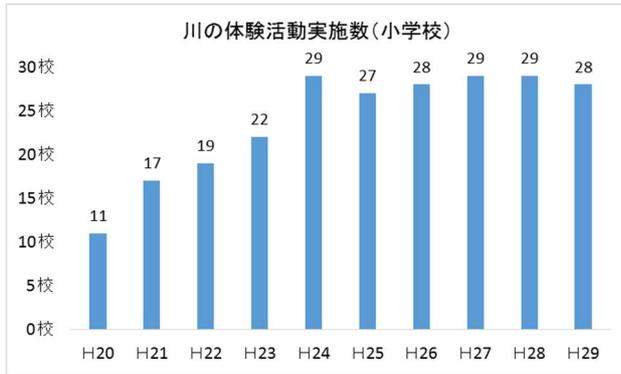
・不法投棄を減らすための対策を講じていますが、状況はなかなか改善していません。

(3) 水産資源保全



・(左)魚類の繁殖と生活のために人為的に海中など水中に設置される、魚類の住処(巣)や集まる場となるものです。

(4) 子どもたちの体験活動等



- 平成 19 年度に兵庫県下で「環境体験学習(小学校 3 年生対象)」が導入されたこともあり、授業で自然体験が取り入れられています。

- 平成 28 年度の野外キャンプは、雨天のため中止しました。

- 平成 22 年度から、参加者定員が設けられており、総参加人数は減少しています。

- 子どもコースでは、自然の中で魚や昆虫など生きものの暮らしや火おこし、登山など生きるための知恵を楽しく学びます。

- 定員・参加者ともに、生き物コース(H25～H29)、発見コース(H25～H26)、探訪コース(H25～H27)、冒険コース(H28～H29)の合計値です。

- 親子コースは、4 歳～小学校低学年の子どもと保護者を対象に、ハイキングや伝統食体験などを行います。

- 親子コースは、H27 から家族コースに変わりました。

(5) 海岸清掃

海水浴場のある、竹野浜や気比の浜などで、地域住民やボランティアなどによる浜清掃が行われています。

竹野川下り

中竹野小学校では、全校生徒が竹野川をいかだで下る「いかだ下り」を実施しています。

この行事は、中竹野の子どもたちに「たくましい子になってほしい」「竹野川の素晴らしさを味わわせてあげたい」「友だちと協力することの大切さを体験させたい」との思いで、学校とPTAが開催しています。

平成29年度で、25回目の開催となりました。

いかだ下りの後は、岡田橋から竹野川にダイビング！ダイビング地点では、保護者が水中の枝を取り除くなどして、安全にも十分配慮しています。



2 平成29年度評価

評価

○海岸を清掃するボランティア活動が市内各所で継続的に行われている。

▲大雨の後、河川敷の葦や刈り草などが海に流れている。

▲ポイ捨てごみが減らない。

▲季節風や海流によってたくさんの漂着物が海岸を覆っている。

もっと
がんばろう

目標像⑤

コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【主な取組みの方向】

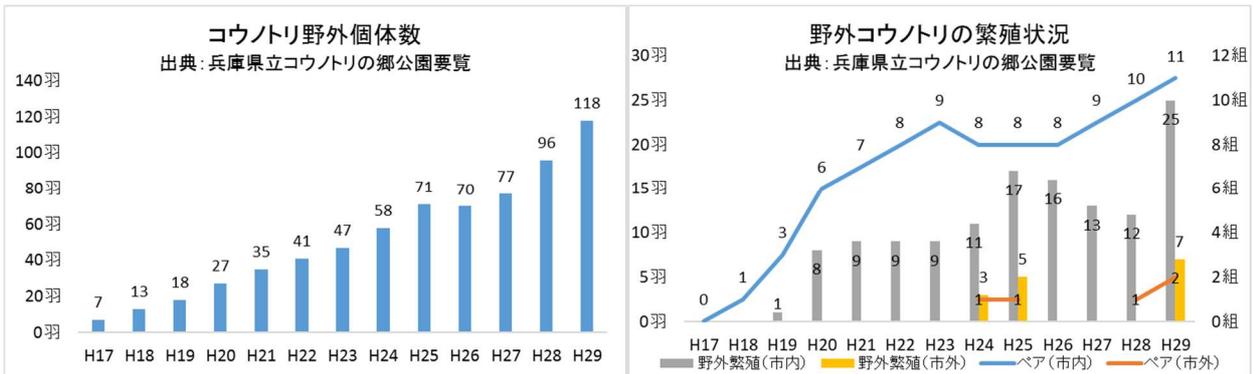
(1) (2) (3) (4) (5)
(7) (8) (9) (10) (14)

【具体イメージ】

コウノトリ育む農法や市民に守られた湿地が市内全域に広がっています／コウノトリのエサになる生きものが増え、生態系のバランスが保たれています／コウノトリが市内各地に舞い降りています／コウノトリも住める豊かな環境づくりの取組みがさらに進んでいます

1 主な指標の変化(平成 19～29 年度)

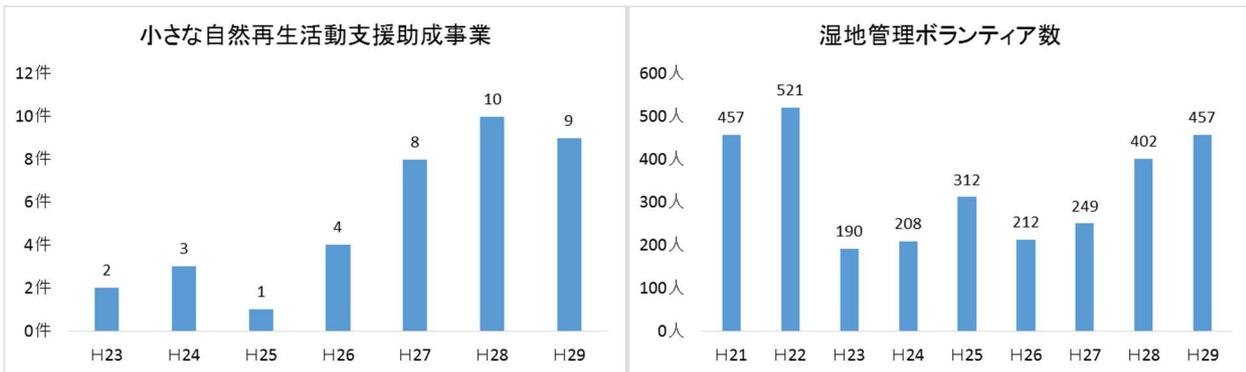
(1) 野外のコウノトリの状況



・平成 17 年の試験放鳥から、野外のコウノトリの自然繁殖も進み、個体数は順調に増加しています。

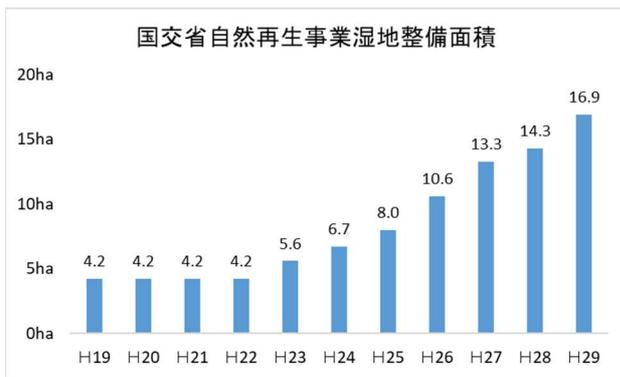
・野生復帰したコウノトリは、市内だけでなく、全国各地を訪れています。平成 29 年度に、47 都道府県全てへの飛来が達成されました。

(2) コウノトリが生息できる環境の整備



・小グループで身近な自然を再生する「小さな自然再生」活動(ビオトープづくり、外来雑草等の除去など)を支援しています。

・戸島、田結、加陽などの湿地では、市内外からのボランティアを受け入れ、保全・管理作業を進めています。



・豊岡河川国道事務所(国土交通省)は、円山川水系河川整備事業の一環として、湿地の整備を行っています。

外来種駆除

Topics

株式会社神鋼アクテック(日高町岩中)と NPO 法人 コウノトリ市民研究所が、外来種・オオキンケイギクの駆除活動を行いました。



オオキンケイギクは、5月～7月ごろに花が咲く、特定外来生物です。特定外来生物は生きたまま他の場所に移動することが法律で規制されており、栽培や運搬、保管などを行うと、個人では「懲役1年以下または罰金100万円以下」が課せられる場合があります(種や卵も生きていれば対象)。

豊岡市では、CSR(企業の社会的責任)活動の他にも、駆除に取り組む団体が活動をされています。

コウノトリ舞う豊岡の地に豊岡らしい生態系を維持し、将来へ引き継いでいきましょう。

2 平成 29 年度評価

評価

- 野外のコウノトリの繁殖が進んでいる。
- 円山川の自然再生事業により、湿地の改良と造成が行われ、市内の湿地ではボランティア等による湿地保全が継続されている。
- ▲外来種の駆除を進めているが著しい成果はでていない。



目標像⑥

様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげていきます

【主な取組みの方向】

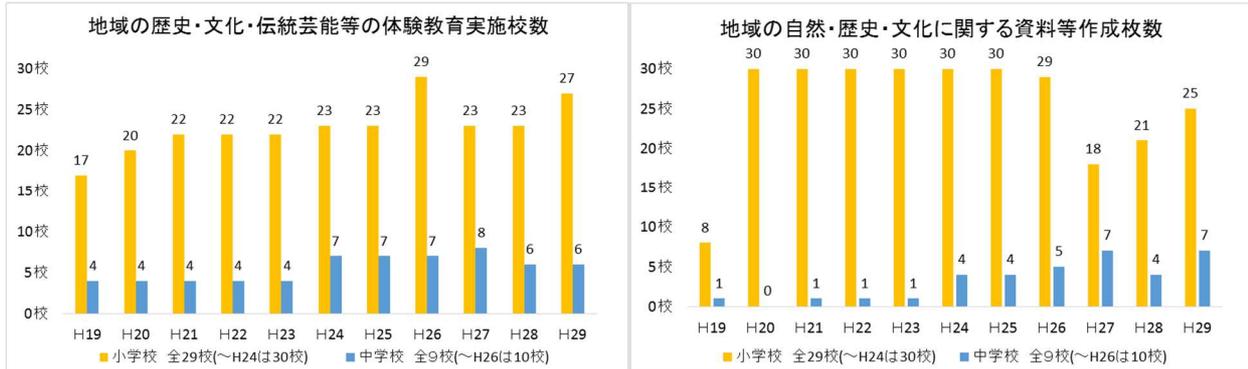
(7) (8) (9)

【具体イメージ】

地域の祭りや伝統行事のことを、おじいちゃんやおばあちゃんが孫に語りかけています／子どもたちが地域の祭りに参加して楽しんでいます／地域の誰もが、地域の文化や歴史に関心を持ち、誇りに感じています

1 主な指標の変化(平成 19～29 年度)

(1) 地域を学ぶ機会



・学校教育の中では、「地域を知る」という視点で意識して地域の「歴史・文化・伝統芸能」に体験教育に取り組んでいます。



(2) 豊岡市の無形民俗文化財

《まちの祭礼》

地域	名称	寺・神社	主体
豊岡	柳まつり	柳の宮(小田井神社境内)	柳まつり実行委員会祭典部・豊岡おどり部
	豊岡のだんじりパレード		豊岡小学校、同PTA、豊岡市市街地区長会、青少年健全育成豊岡会議
城崎	城崎温泉まつり	四所神社	四所神社氏子総代会、城崎温泉観光協会
	温泉寺開山忌	温泉寺	温泉寺奉賛会主催
	城崎のだんじり祭り	四所神社	四所神社氏子

地域	名称	寺・神社	主体
出石	有子山稲荷神社の初午祭	有子山稲荷神社	弘道地区十六区(氏子)、商工会
	出石だんじり祭り	石部神社、諸杉神社、伊福部神社	出石だんじり祭り実行委員会
	諸杉神社の秋祭り	諸杉神社	諸杉神社氏子
	出石大名行列槍振り		出石大名行列保存会

出典：豊岡市の祭礼・年中行事等調査報告書

《民俗芸能》

地域	名称	寺・神社	主体
豊岡	法花寺万歳		法花寺万歳保存会
	雷神社の御田植祭	雷神社	雷神社氏子
	奈佐節(六条さん)		奈佐節保存会
	森尾の盆踊り		森尾盆踊り保存会
竹野	轟の古代太鼓踊り	蓮華寺(真言宗)	蓮華寺古代太鼓踊保存会・僧侶
	轟・森神社の獅子舞と大神楽	森神社(旧 式内社阿古谷神社)	轟太鼓神楽保存会
	森本の盆踊りと変装踊り		森本区長・森本盆踊り保存会
	田久日の盆踊り		田久日区民
日高	気多神社秋祭りの獅子舞		気多神社太神楽保存会
	鶴岡大祭と太神楽	井田神社	鶴岡大祭実行委員会
出石	箱根神社のお田植えさん	箱根神社	福居区
	大日神社の奉納獅子舞(廃絶)		百合区
	出石盆踊り		出石町盆踊り大会実行委員会
但東	大生部兵主神社の春祭りの練り込み太鼓と浦安の舞	大生部兵主神社	大生部兵主神社氏子ほか
	栗尾の練り込み太鼓	愛宕神社、清滝神社、日定神社	栗尾練り込み太鼓保存会
	新宮神社秋祭りと東中・小坂の練り込み太鼓	新宮神社	
	赤野の太刀振り	赤野神社	赤野太刀振り保存会
	如布神社の秋祭り・如布神楽	如布神社	地域内氏子

出典：豊岡市の祭礼・年中行事等調査報告書

《各地区の氏神・子祠・堂の祭祀と年中行事》

地域	名称	寺・神社	主体
豊岡	庚申堂の星祭り	庚申堂、京口会館	星祭祭典員会、京口区、京寿会、婦人会、壮和会
	兵主神社の千本杵餅つき	式内兵主神社	赤石区
	中嶋神社菓子祭	中嶋神社	中嶋神社、奉賛会、氏子
	絹巻神社の子供奉納相撲	絹巻神社	絹巻神社、港地区の各区、港こども育成会

地域	名称	寺・神社	主体
	ゑびす大祭 宝恵駕籠行列	小田井神社境内 ゑびす神社	小田井神社奉賛会
	女代神社の茅の輪くぐり	女代神社	女代神社氏子
	江月寺の祇園さん・数珠繰り	江月寺	長松寺(下鶴井)
	気比の精霊送り		気比区、気比育成会
	田結の地蔵盆	六地藏堂	大師講の講員と仏教婦人会の有志
	長谷の万灯		長谷区万灯実行委員会
	中郷の秋祭り・ジジババオコシ	葦田神社	中郷区
城崎	楽々浦・鼻かけ地藏の祭り	地藏堂	鼻かけ地藏尊奉賛会
	来日の地藏盆		口組の戸主を中心に、子供会・老人会 が参加
	久流比神社の秋祭り・ふみこし	久流比神社	久流比神社氏子
	青山神社の秋祭り・だんじり祭 り	青山神社、天満社	青山神社氏子、天満社氏子
竹野	床瀬の狗留尊仏祭り		床瀬区
	松本・十二薬師堂の数珠繰り (百万遍念仏)	十二薬師堂	松本区
	芦谷の不動尊祭り(お不動さ ん)		芦谷区
	興長寺の目の薬師の縁日	興長寺	興長寺境内の薬師堂
	田久日の村施餓鬼		田久日区
	轟の寺施餓鬼	蓮華寺	轟・鬼神谷・駅前・林・恵日・東大谷・ 下塚の各区
	竹野の浜施餓鬼		但馬漁業協同組合竹野支所
	森本の地藏講(数珠繰り)	地藏堂	女性の有志
	森本の地藏盆		森本区長、森本盆踊り保存会
日高	宵田の十日恵比寿祭り	日枝神社末社 恵比寿神社	宵田区
	田ノ口の塞の神祭り	清滝神社	田ノ口区
	ばば焼き(御柱祭り)	十二所神社	松岡区
	山田の花まつり		山田区
	お薬師さんのご開帳・すり焼き	国分寺	国分寺
	石龍神社の子供奉納相撲	石龍神社	久斗子供会、久斗相撲保存会
	浅倉の川濯祭り	兵主神社末社 水無月神社	浅倉区
	伊府の数珠繰り		老人会、子供会
	夏栗の弘法大師祭(二十日盆・ 盆踊り)	善福寺	夏栗区、子供会は共催
	上石の地藏祭り(水生地藏)	清水場、岩盤の祠	上石区
	奈佐路の地藏祭		奈佐路区

地域	名称	寺・神社	主体
	広井の万灯火祭り	権現山の火災不動、広井地区のお堂	広井区民(男性)
	山田の秋祭りとお日堂の法要	吉野神社、三柱神社、お日堂	山田区
	須谷神社の秋祭り	須谷神社	藤井区民
	西芝のだんじり祭り	須賀神社	西芝区
出石	幟回し	出石神社	宮内少年会
	袴狭の川下祭り	川下神社	袴狭区、白糸会
	伊豆の甚五郎万灯		伊豆区
	平田の地藏盆(廻り地藏)ほか		諏訪
	愛宕の火祭り	伊福部神社、愛宕神社	御神火会、愛宕火祭り奉賛会
	片間の万灯		片間地区隣保
	福見妙見堂の妙見さん		福見区
	鍛冶屋の八朔の大綱引き		鍛冶屋区文化部、子供会
	御出石神社・貴船神社の秋祭り	御出石神社、貴船神社	桐野区、寺坂区、中野区、日野辺区
但東	但馬天満宮の学業成就合格祈願祭	但馬天満宮	奥矢根区
	福寿稲荷の初午	稲荷社	坂野区
	赤花の鬼子母神祭	法華寺	法華寺
	栗尾の薬師祭り	松禪寺	薬師堂、栗尾ふるさと委員会ふるさと一三五
	久畑・愛宕神社の夏祭り	一宮神社、一願不動尊	久畑区(祭礼)、けやきの会
	虫生の万灯		虫生区の青年層
	日出神社の千本餅つき	日出神社	南尾区、出合区、日殿区、出合市場区

出典：豊岡市の祭礼・年中行事等調査報告書

(3) 地域コミュニティ

平成 29 年度から、地区公民館が全て地区コミュニティセンターに変わりました。

それに伴い、旧地区公民館区域を単位とした新しい地域コミュニティが、自ら「地域づくり」や「課題解決」を行います。

地域コミュニティづくりは、若者から高齢者まで、男性も女性も、多様な住民が参画しながら地域の未来を見据えて住民自治を進める取り組みです。

<各地区コミュニティと主な交流行事>

地域	地区	コミュニティ名	平成 29 年度の交流行事の一例
豊岡	豊岡	とよおかコミュニティ 31	豊岡盆踊り大会
	八条	八条コミュニティ	ビオトープ八条まつり
	三江	三江コミュニティ	三世代グラウンドゴルフ大会
	田鶴野	コミュニティたづるの	土曜チャレンジ・もちつき大会
	五荘	コミュニティ五荘	五荘地区文化祭
	新田	コミュニティ新田	人文字イベント
	中筋	コミュニティなかすじ	尼崎エコツアー
	奈佐	奈佐地区コミュニティ なぎさの会	三世代交流そば打ち大会
	港	コミュニティみなと未来	わくわく☆どきどきフェスティバル
	神美	神美コミュニティ	つながるカフェ・ふれあいフリーマーケット
城崎	城崎	コミュニティ城崎	子ども教室
竹野	竹野南	竹野南地区コミュニティ わいわいみ・な・み	喫茶よつば／わいわいみ・な・み市場
	中竹野	中竹野地区コミュニティ	中竹野たんけん
	竹野	コミュニティたけの	竹野まちあるき
日高	国府	コミュニティこくふ	はるかひまわり
	八代	八代おもいやりネット	三世代ふれあい夏祭り
	日高	日高地区コミュニティ 「きらめき日高」	日高ふるさとまつり
	三方	コミュニティ三方	みかた祭り
	清滝	桜・清流の郷 きよたき	もみじ狩りハイキング
	西気	西気明日のいしずえ会	神鍋大根プロジェクト
出石	弘道	弘道コミュニティ協議会	弘道魅力展
	菅谷	はにの里菅谷協議会	千本餅つき
	福住	福住ふれあい協議会	静桜宴(せいおうえん)
	寺坂	床尾里てらさか	土曜朝市
	小坂	夢コミュニティ小坂	小坂の歴史を学ぶ教室
	小野	小野コミュニティ	古代米づくり ※かかし倶楽部との共催
但東	資母	資母まちづくり協議会	土曜チャレンジ(ふるさと農園)
	合橋	コミュニティあいはし	大阪経済大学スタディーツアー・だ いけいだい教室
	高橋	高橋振興対策協議会	たかはし健康★夏まつり

※平成 29 年度の交流行事の一例は、「平成 29 年度地域コミュニティ組織活動事例集」の「取組みピックアップ」から抜粋

伝統・民族芸能紹介

■法花寺万歳(県指定無形民俗文化財)

「万歳」とは、正月に家々の座敷や門前で祝いを述べる、祝福芸です。

豊岡市法花寺の万歳は、江戸時代後期に京都へ出奉公していた村民の1人が習い覚えて帰郷し、農閑期の出稼ぎとして門付け(注)をしたのがはじまりと伝えられています。

門付け芸を伝承している万歳として貴重で、平成17年に県の無形民俗文化財に指定されました。



(写真提供：NPO 法人コウノトリ市民研究所)

(注)人家の門前に立って音曲を奏するなどの芸をし、金品をもらい受けること

2 平成 29 年度評価

評価

- 各地域コミュニティで特色のある活動が行われている。
- 地域の自然・歴史・文化に関する資料等を作成する学校が増えてきている。
- ▲高齢化、少子化により、伝統行事の継続が難しくなっている。

この調子で
がんばろう

目標像⑦

子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【主な取組みの方向】

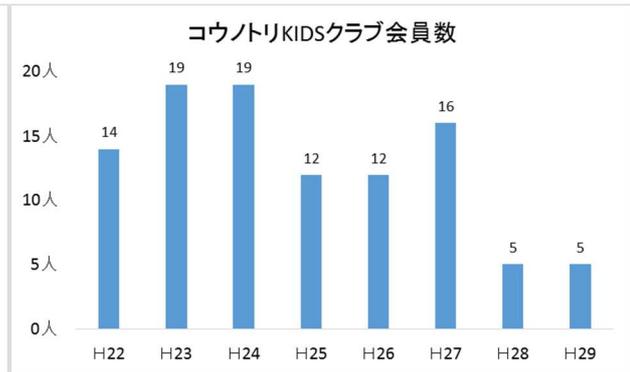
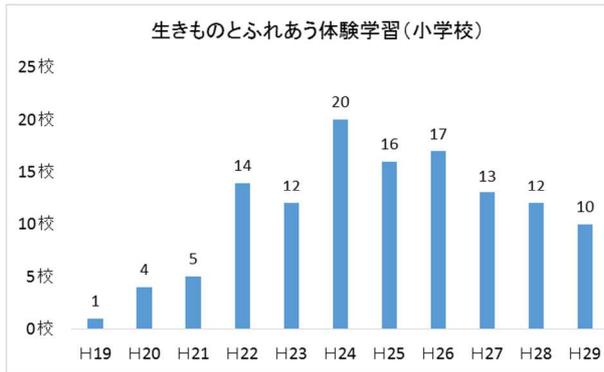
- (1) (2) (3) (4) (5)
(8) (9) (10) (14)

【具体イメージ】

地域の環境をよくする取組みが広がり、自然が豊かになっています／自然のことをたくさん学んだ子どもたちがよく外遊びをしています／子どもたちを地域の人が見守っています

1 主な指標の変化(平成 19～29 年度)

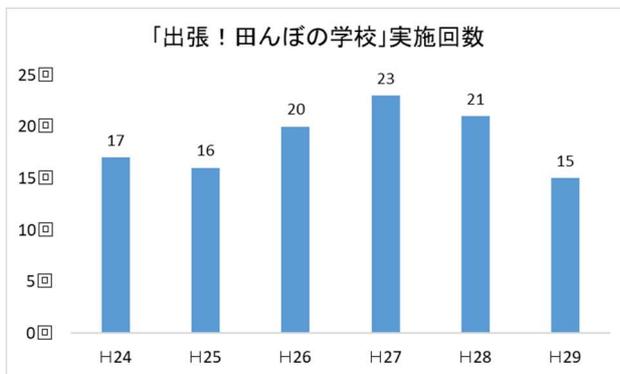
(1) 自然を学ぶ機会



・小学校の生きもの調査のなかで、市が指導を担当した数です。独自に実施している学校もあります。

・コウノトリ KIDS クラブは、コウノトリとその生息を支える自然を深く学ぶ、市主催のクラブ活動です。

対象：市内小学校 4～6 年生



・出張田んぼの学校では、NPO 法人コウノトリ市民研究所のスタッフが、各地域の主催で行われる生きもの調査に講師として出向きます。

(2) 学べる地域環境

《市内各小学校区のビオトープ水田面積》

(単位：a)

地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	
豊岡	豊岡	0.0	城崎	城崎	0.0	出石	弘道	0.0	
	八条	45.3		竹野	竹野		20.2	福住	0.0
	田鶴野	47.7			中竹野		0.0	寺坂	0.0
	三江	61.3	竹野南		0.0		小坂	0.0	
	五荘	225.5	日高	府中	0.0		小野	56.1	
	新田	0.0		八代	28.6	合橋	294.0		
	中筋	14.7		日高	40.8	高橋	0.0		
	奈佐	116.5		静修	0.0	資母	0.0		
	港東	11.5		三方	57.5				
	港西	0.0		清滝	19.1				
神美	219.3								

・市内全小学校区を目標に、一定規模のビオトープ水田の設置を進めています。

・環境学習フィールドとしても活用しています。

・合計面積の推移は p. 15 に掲載しています。

平成 29 年度から、“ふるさと豊岡のことを自分の言葉で語り誇れる子ども”を育てることを目指して、市内の小・中学校で「ふるさと教育」が始まりました。

聴講や調べ学習だけでなく、ジオサイトの見学や湿地での生きもの調査などの体験学習を通して、「山陰海岸ジオパーク」「コウノトリ」「産業・文化」の視点から、豊岡の魅力を学びます。

また、毎年、コウノトリ文化館と NPO 法人コウノトリ市民研究所が共催で、田んぼや里山を遊びと学びの場として活用する環境教育「田んぼの学校(注)」を開校しています。子どもだけでなく、親子で生きものや自然に触れて学びます。平成 29 年度は、12 回の活動で延べ 393 人が参加しました。

ふるさと教育や田んぼの学校で、豊岡の自然や豊岡が世界に自慢できるさまざまな魅力を知って、世界とつながることのできる「小さな世界都市」豊岡市を担う大人に育ってくれることを期待しています。

《平成 29 年度「田んぼの学校」活動一覧》

4 月	春の野草を探そう	10 月	アカトンボ探し
5 月	春の田んぼ・オタマやタイコウチなど	11 月	里山で落ち葉集め・など
6 月	初夏の田んぼ・トンボやカエル	12 月	リース作り
7 月	小川の生きもの探し	1 月	クラフト作成
8 月	小川の生きもの探し	2 月	冬の田んぼ里山で生きもの探し
9 月	バッタ・イナゴ探し	3 月	アカガエル調査

(注)「田んぼの学校」は、(一社)地域環境資源センターの登録商標です。平成 10 年度に、国土庁(現・国土交通省)・文部省(現・文部科学省)・農林水産省の 3 省庁合同の調査において、各界有識者による研究会が設置され、提唱されました。

2 平成 29 年度評価

評価

- 全ての小・中学校でふるさと教育がはじまった。
- 自然環境学習を深める受け皿の一つとしてコウノトリ KIDS クラブの活動が続いている。

この調子で
がんばろう

目標像⑧

市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

【主な取組みの方向】

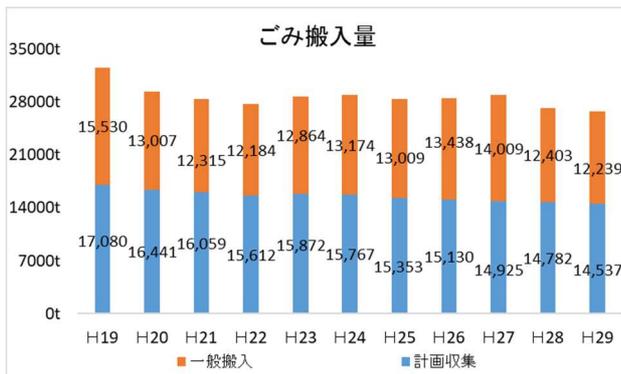
(2) (6) (9) (11) (12)

【具体イメージ】

資源ごみ回収ステーションが増えています／みんなが無駄遣いを減らし、分別を徹底することでごみの量が減少しています／生ごみは堆肥などに、廃食用油は燃料として利用され、資源やエネルギーの地域内循環が進んでいます／事業者は、ゼロエミッションの取組みを進めています

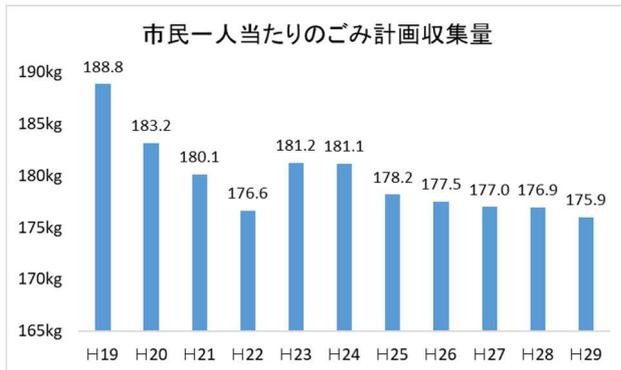
1 主な指標の変化(平成 19～29 年度)

(1) ごみの量

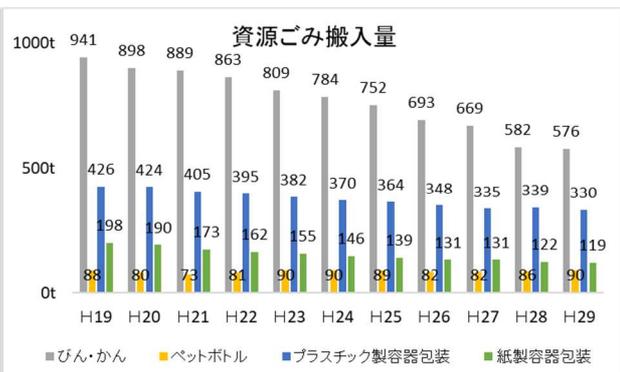
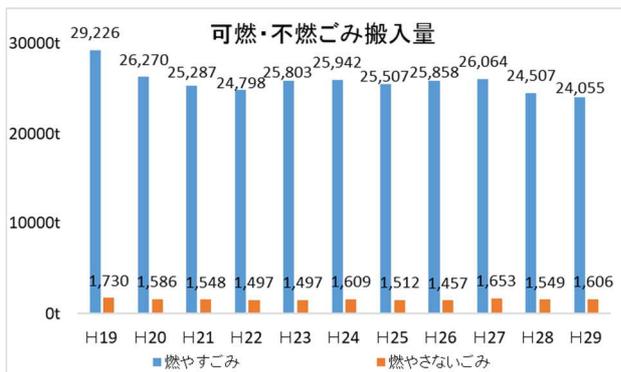


《豊岡市人口》

年度	人口
H19	93,869人
H20	92,752人
H21	89,208人
H22	85,592人
H23	84,876人
H24	84,116人
H25	83,338人
H26	82,462人
H27	82,269人
H28	81,391人
H29	80,595人



・搬入されるごみのうち、計画収集で搬入されるごみの市民一人当たりの量は、平成 23 年度の増加以降減少傾向にあります。



- ・ごみの分類ごとの搬入量は、計画収集と一般搬入を合わせたものです。
- ・平成 28 年 4 月から一部のごみの分別区分が変わりました。
 - ①燃やすごみで指定袋に入らないものは粗大ごみに
 - ②燃やさないごみは、燃やさないごみ・蛍光灯・乾電池類・粗大ごみの 4 分類に
 - ③ 1 辺 20cm 以上の缶は燃やさないごみに
 - ④プラスチック製品(プラ製容器包装を除く)は、硬さに関わらず全て燃やすごみに一変更

(2) 資源ごみの回収

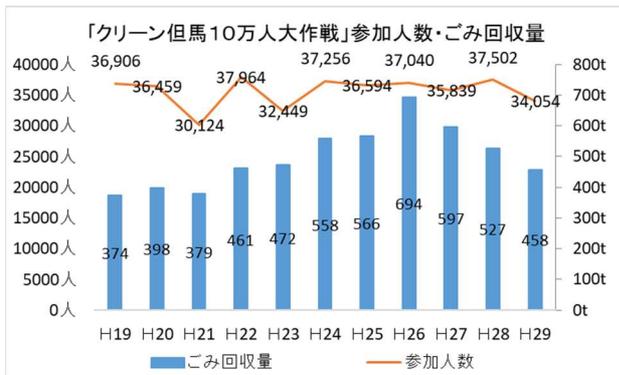
ほぼ全ての小・中学校で、資源ごみ回収(廃品回収)やリサイクル活動が行われています。



- ・豊岡市の住民で構成される自治会、子供会、婦人会、老人会、PTA等の営利を目的としない団体を対象に、資源ごみ集団回収事業補助金を交付しています。

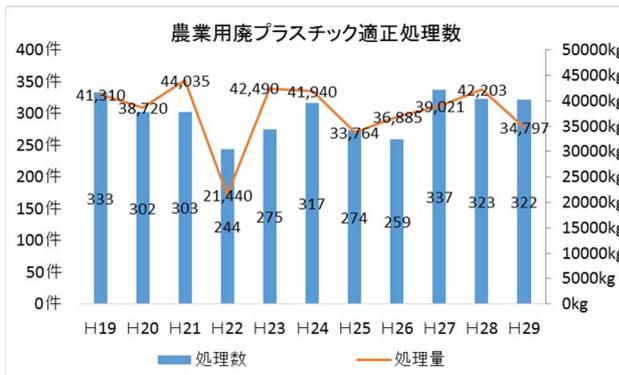
- ・集団回収以外にも、スーパーマーケット等の施設でも、資源ごみが回収されています。

(3) ごみ回収の取組み



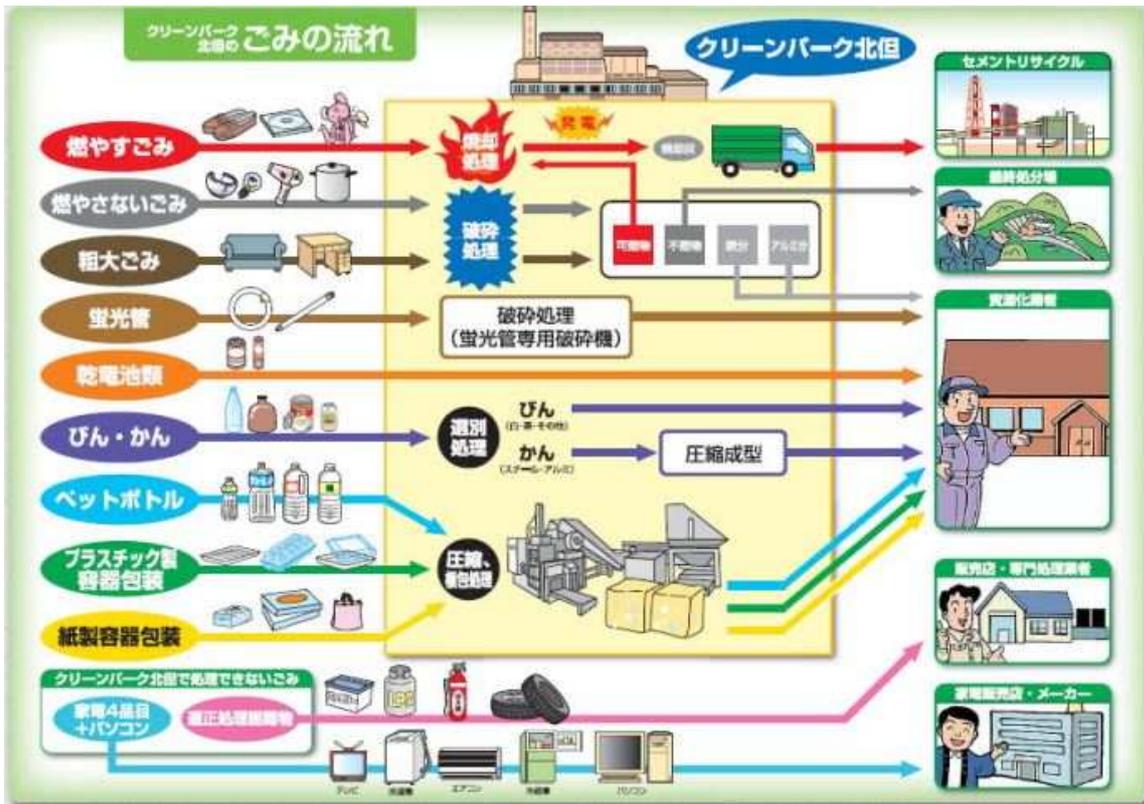
- ・平成2年から、毎年6月の第一日曜日を実施基準日として定め、住民が参加する清掃・美化活動「クリーン但馬10万人大毎年作戦」を実施しています。

- ・地域住民がよりいっそうクリーンなまちづくりについて意識を高め、但馬を美しく住み心地の良い地域とすることを目指します。



- ・ビニールハウス等の農業用廃プラスチックは、毎年持ち寄って集団処理が行われています。

現在、クリーンパーク北但では、九つの分類でゴミを収集しています。
 焼却処分ができるものはクリーンセンターで燃やされ、燃やした熱を利用して発電を行います。他のものはリサイクルセンターで選別、粉碎・圧縮され、資源化業者によって再利用されます。



(出典：豊岡市公式ホームページ)

2 平成 29 年度全体評価

評価

- 一人当たりのごみ量が減っている。
- ▲クリーン但馬 10 万人大作戦の参加人数が減っている。
- ▲資源ごみの搬入量が増加せず、分別回収が進んでいるとは思えない。



目標像⑨

市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

【主な取組みの方向】

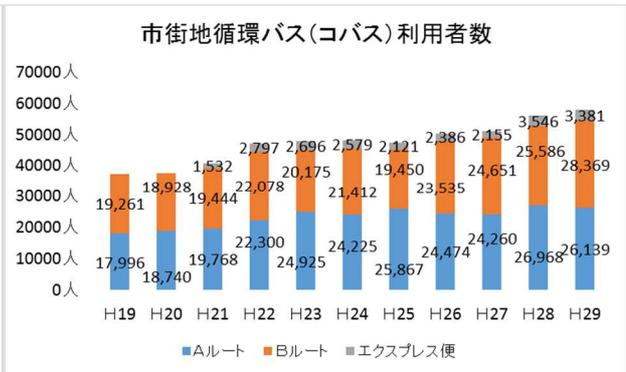
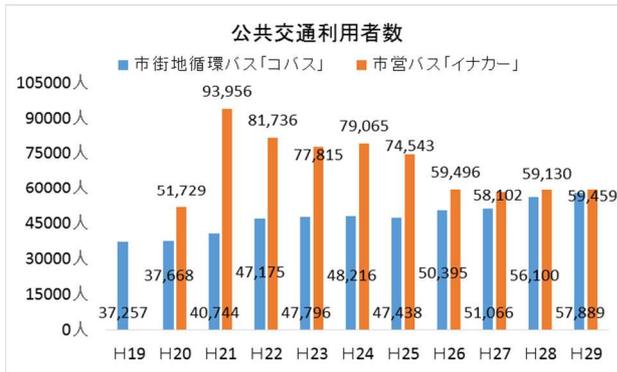
(6) (9) (12)

【具体イメージ】

地球温暖化防止の意識が高まり、化石燃料の使用を減らす行動が広がっています／大人も子どもも省エネルギー行動が当たり前になっています／太陽光発電パネルの設置や電気自動車の導入、エコドライブの実践が進んでいます

1 主な指標の変化(平成 19～29 年度)

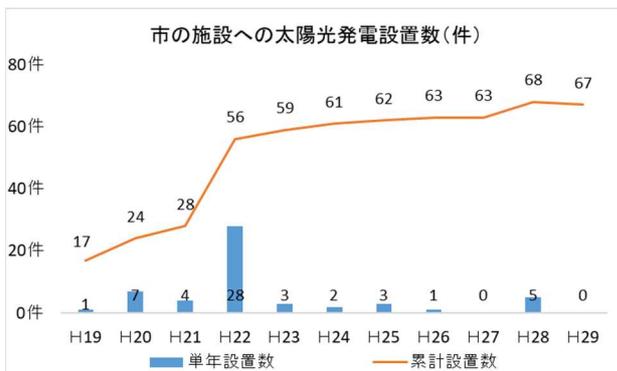
(1) 公共交通の利用



・公共交通機関を利用することで、各乗用車での化石燃料使用が減り、一人当たりの CO₂ 排出量も減らすことができます。

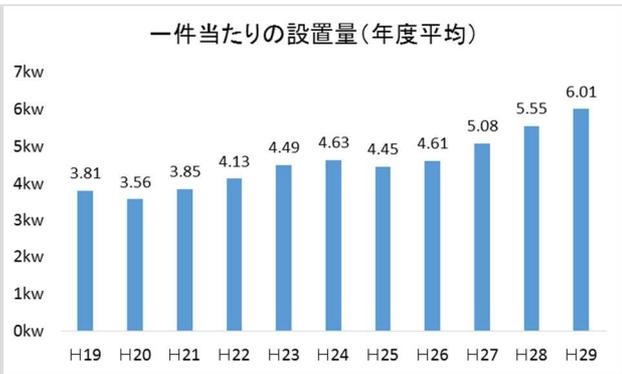
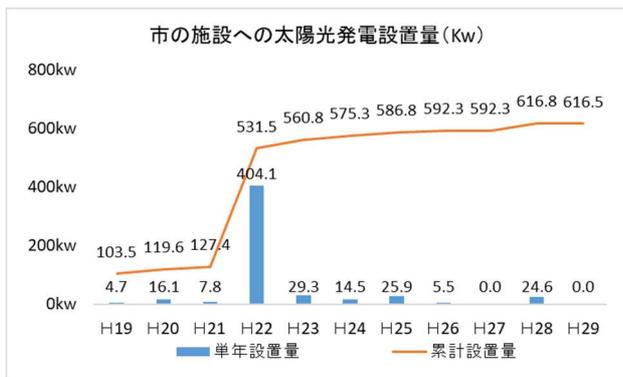
(2) 太陽光発電

・太陽光発電は、発電時に化石燃料を使用せず、CO₂ も発生しないため、環境への負担が少ない電力です。



・市の施設への設置は、平成 11 年度から行われています。

- ・平成 25 年度、介護施設 2 件を民間譲渡
- ・平成 29 年度、破損により 1 件撤去



- ・平成 23 年度から、蓄電池も補助対象となりました。
- ・性能向上・設置コストの低下により、申請 1 件(=住宅一軒)あたりの設置発電量は、増加しています。

《豊岡市所有大規模太陽光発電所》

施設名		最大出力	発電量	売電収入額
豊岡エコバレー 山宮地場ソーラー	第 1 期 (H24稼働開始)	681.0kw	747,800kw	32,304,960円
	第 2 期 (H25稼働開始)	318.8kw	217,753kw	9,406,930円
コウノトリ但馬空港 地場ソーラー	(H25稼働開始)	677.6kw	725,940kw	28,224,547円
豊岡エコバレー 竹貫地場ソーラー	第 1 期 (H27稼働開始)	823kw	949,754kw	36,926,436円
	第 2 期 (H27稼働開始)	300kw	349,830kw	10,201,043円

- ・「発電量」「売電収入額」は、平成 29 年度実績値です。
- ・各大規模発電所は、20 年間運営します。
- ・大規模発電所で発電した電力の売電収入は、設備の維持・管理費の他に、住宅用太陽光発電システム導入補助、木質バイオマス利用機器設置補助の費用に充てています。

豊岡市は、環境に優しく豊かな暮らしを持続させるために、温暖化の原因の一つである CO₂ を 2030 年度までに 2013 年度比 28.1%削減する目標を立てています。初年度である平成 29 年度は、10 の事業所が「エコ事業所宣言」をしました。

エコな取組みは、コストや手間がかかり、どこまで効果があるか分からないなどマイナスなイメージがありますが、決してそんなことはありません。環境経営を正しく理解し、実践することでコストを削減でき、企業価値の向上につながります。

エコ事業所宣言は、事業所が新たにはじめるエコな取組みを宣言し、その実現を応援していく制度です。事業所の皆さんと、これから何をしていかなければならないのか、何ができるのか一緒に考え、実践していきます。

《宣言事業所》数字は宣言受理番号

- 1 有限会社衣川クリーニング
- 2 株式会社キヅキ商会
- 3 株式会社浮田幸栄堂
- 4 株式会社出石モータース
- 5 株式会社東豊精工
- 6 株式会社クレス
- 7 株式会社中村建設ナカフサ
- 8 カネカソーラーテック株式会社
- 9 株式会社エフエムたじま
- 10 川中建築



▲「エコ事業所宣言」募集チラシ

2 平成 29 年度全体評価

評価

- コバス利用者が増加している。
- エコな取組みをする事業所を応援する制度がはじまった。
- 住宅用太陽光発電設備の補助件数が増加している。
- メガソーラーによる発電も順調である。



目標像⑩

環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【主な取組みの方向】

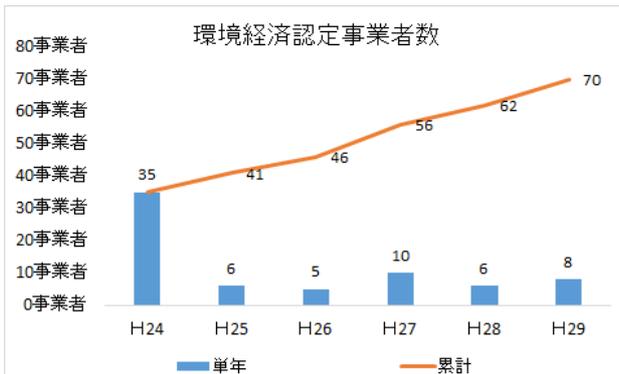
(6) (9) (12)

【具体イメージ】

「環境と経済の共鳴」の環境経済戦略がさらに進み、豊岡の知名度が上がっています／人・もの・情報が広域的に行き交う取組みが進んでいます／新たに受け入れた産業や企業、知や技の交流を通じて、豊岡の町が元気になっています

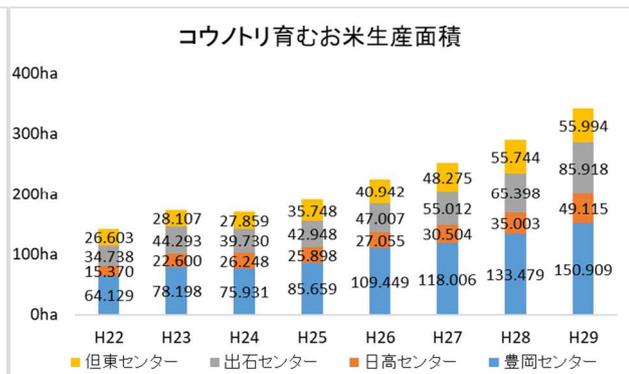
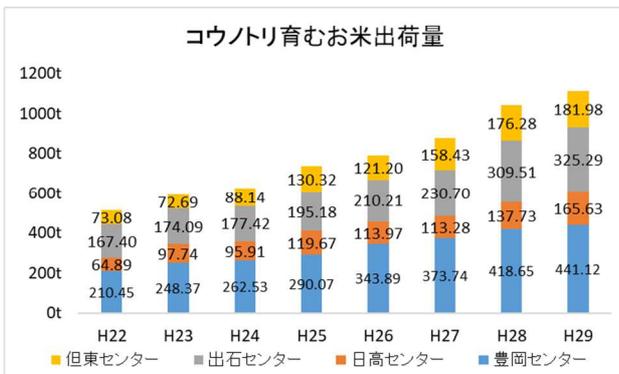
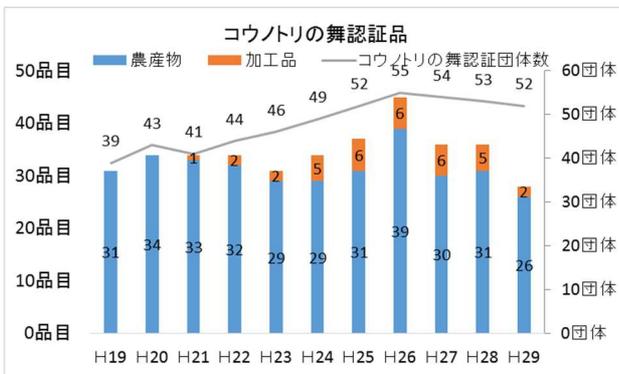
1 主な指標の変化(平成 19～29 年度)

(1) 環境経済認定事業



・市内の企業で、利益を追求する事業で環境が改善されるものを「環境経済事業認定」しています。

(2) 豊岡ブランド



・コウノトリ育むお米は海外でも販売されています

平成 29 年度末現在：3 カ国（アメリカ、香港、シンガポール）